



研究部会報告

●交通経営●

●第8回

日時：平成2年11月21日(水) 18:00~20:00

出席者：9名

場所：東洋経済新報社 402会議室（日本橋）

テーマと講師：「米国に見る地方の活性化」—オハイオ州見聞記— 谷口和正（川崎製鉄㈱千葉製鉄所企画部能率室主査）

アメリカ合衆国の地理的概要、中部大平原の概況とオハイオ州の特色と活性化についての考察が示された。地域の活性化には地勢、歴史、政治によるところが大きい。特に、背骨形の交通網が発達している地域では、その線上に数個の小数の大都市が発達し、その線上に中核都市の充実はできにくい。網目状の場合は中核都市ができやすく、住み心地のよい中核都市の充実が地域の活性化の基礎となっている。

●第9回

日時：平成2年12月19日(水) 17:30~20:00

出席者：10名

場所：同上

テーマと講師「公共経済学から見た交通経営」 藤井真人（東洋経済新報社出版局長）

道路における違法駐車、鉄道と道路の平面交差における開かずの踏切など、交通財の外部効果とともに外部不経済の発生がみられる。この場合に交通財の性格の明確化は正常な交通機関のあり方、利用者に対する好ましい交通機関の対応を考察する上で重要な着眼点となる。したがって、交通財に対する公共財、私的財としての性格と経済的な行動原理を与える公共経済学の適用の提案が行なわれた。

●第10回

日時：1月16日(水) 18:00~20:00 出席者：8名

場所：同上

テーマと講師：「中国の鉄道事情」 吉野達夫（財団法人運輸調査局調査センター参与調査部長）

講演内容は、中国の国勢概要、鉄道事情、交通政策、

日本との技術協力である。鉄道は国有国営で、日本と同じ頃の創業で、営業キロ5.3万km（JRの2倍）職員306万人（JRの10倍）である。SL、DL、ELによる旅客、貨物の輸送を行ない、東海道新幹線なみの0.66の営業係数を挙げている。なお、年間1000kmの新線建設を行なっている。電車は公営地下鉄3線でわずかの使用がある。

●待ち行列●

●第68回

日時：12月22日(土) 14:00~16:30 出席者：29名

場所：東京工業大学（大岡山）南4号館6階677号室

テーマと講師：(1)「EW(GI/G/S)の内挿近似について」木村俊一（北海道大学経済学部）

到着およびサービス時間分布の変動係数をパラメータとし、M/M/S、M/D/Sの結果を用いた平均待ち時間の近似式の改良について言及した。

(2)「CVS駅モデル」 中田勝啓、米山忠暲（玉川大学工学部）CVS駅システムを抽象化したシステムモデルを構築し、その推移確率行列を系統的に導出する方法を示した。

●確率モデルにおける最適化●

●第4回

日時：1月12日(土) 14:00~17:00 出席者：15名

場所：東京ガス四谷クラブ

テーマと講師：(1)「凸多面体の端点列挙法—退化が頻繁に生じる場合」 萬家順一（防衛大学校）

凸多面体の端点列挙において、退化が頻繁に生じる場合は一端点が数個の基底を持ってしまい無駄なピボット演算が生じる。このような場合に無駄なピボット演算を減らした端点列挙アルゴリズムを紹介した。

(2)「凸多面体、アレンジメント、有向マトロイド」

福田公明（筑波大学社会学系）

凸多面体のいくつかの組合せの性質から始まり、例を用いた凸多面体・アレンジメント・有向マトロイドの関係、有向マトロイドが凸多面体やアレンジメントの組合せの性質を考察するために有用であることなどが紹介された。